

〔八丁原＝6月26日〕大分県玖珠郡九重町湯坪に建設を進めてきた九州電力株式会社八丁原地熱発電所は6月24日官庁検査を終わり、営業運転を開始した。

当社は同発電所建設に関して、タービン据付および計装工事を三菱重工業株式会社社長崎造船所、発電機据付および電気系統工事を三菱電機株式会社、配管関係を九州電力株式会社からそれぞれ受注し、50年9月から先行工事に入った。翌51年3月には八丁原建設所を設置して本格的な工事を開始し、同年10月15日台座式、12月7日中間検査、52年4月7日通気と工事を進めてきた。

八丁原地熱が運開

国内最大の地熱発電所 多くの困難を克服し工事完遂

この間、現場が山間僻地にあるため、機械搬入の不便さ、冬季の積雪凍結など気候条件の厳しさ、そして国立公園内に位置するための環境保全上の制約など、多くの困難に遭遇し、また、今年3月には飯田所長が病氣療養のため現場を離れ、急きょ本店から福岡課長が派遣されるといふアクシデントがあったが、石井、白杵、伊藤各所長代理以下、全所員が丸一となって工事に取組み、みごと完遂させたものである。運開に当

たり。福岡所長代行は「悪条件の中で全員が力を合わせて積極的に工事に取組んでくれた。この工事に従事した全員に心から感謝したい」と語った。

八丁原発電所は、九州では大岳発電所（出力1万1,000KW）に次いで2番目、全国で5番目の地熱発電所。最大出力5万KWの能力をもつが、8本の蒸気井のうち、まだ堀削中のももあるため、2万3,000KWで営業運転開始となった。それでも出力は国内最大。年内には堀削工事を終了させ、5万KWまで出力をアップする予定である。

日常保修体制に入る 八丁原）併せて担当 大 岳）

当社は、九州電力八丁原発電所の日常保修工事のため、7月1日大分事業所の所属で八丁原出張所（青木澄男所長）を開設する。同出張所は、大岳発電所の日常保修も併せて担当し、このため大岳出張所は6月30日で廃止される。

また、八丁原発電所の運開にともない、6月30日付で八丁原建設所を廃止する。残工事については、7月1日開設される八丁原作業所（工事部所属、白杵孝所長）が引継いで行っていく。

営業運転を開始した八丁原地熱発電所

